

新武蔵野方式による公立保育園の設置・運営主体変更についての検証委員会

第4回 議事録要旨

日時：平成25年2月13日（水）午後6時30分から午後8時

場所：武蔵野市役所西棟4階 411会議室

1 座長挨拶

あと1カ月で3園移管も始まるため、今回は今までの検証の総括と次の移管に向けてまとめたうえで、当検証委員会の最後としたい。

2 議題

(1) 前回会議以降の状況報告

(座長)：前回の会議が7月であったのでその後の状況報告をさせていただきたい。

(副座長)：前回の移管園の状況を踏まえて、今度の3園移管園運営に向けての準備を進めている状況である。また、手続きとしては、3園移管に向けて、認可園の申請を行うタイミングである。3月9日に新入園児の説明会があり、その際に移管に向けての説明会も行う方向で調整中である。

毎回、運営委員会の報告を行なっているが、徐々に各園の独自性が出始めている。北町保育園は12月11日に、千川保育園は2月1日に運営委員会を行った。いずれの運営委員会も父母会にて確認を行ったうえで運営委員会に臨んでおり、父母会が大きな位置を占めている。会議自体の大枠として、前回会議の質疑と最近の課題を話すという流れが出来てきている。北町保育園においては、散歩の方法など実際の保育に関することや園舎の工事・引っ越しについても確認している。千川保育園については、第三者サービス評価のアンケート速報の報告や父母会からの提案として、現在父母会独自で行っている行事（お泊り保育など）のことや防災委員を作ろうかといった具体的な話もよく話題になった。

運営委員会は移管の検証ではなく、各園において実際に気になっていることについて意見交換を行う場となっている。

(職員A)：アンケート結果については、一定の評価が出ているが、今すぐ行なっていくことと課題として検討して行っていくことを職員間で検討している段階である。

(座長)：移管園の保護者として、この1年間での変化など感じたことがあれば教えていただきたい。

(保護者A)：北町保育園は移管というより園舎の建て替えが中心であったと思う。特に、新園舎への引っ越しに備えて子どもたちの生活を変えていく部分に関しての連絡は細目に行われていたので非常に良かった。建て替えに関連して色々ある中で行事も行なえて、保護者も園も良くやれたという感じであった。

(保護者B)：千川保育園は一年間大きな変化はなかった。ただ、今年の方が先生方が細かく情報を見えるように出されていたので安心であった。

(保護者C)：移管問題よりも震災や防災の話題が保護者間で意見に出ることが多かったと思う。先生方が同じだったことで、市が当初懸念されていた部分をフォローした結果だと思う。

(座長)：これから移管となる保護者として、4月からの移管に当たって確認したい点はありますか。

(保護者D): 境こども園が途中で建築がストップしたことが、子ども協会立保育園の子どもたちにとって何か影響が出てしまうのではないかと心配している。

(座長): 境こども園については、全体への影響は少ない。境こども園に内定が決まっていた児童については、代替事業での保育となるので影響は多少ある。ただ、保育園の児童への影響はないと考えている。長時間児は市民会館、短時間児は児童館で保育することになっている。先に内定が出た児童について、転園を希望する方もいたので、その方たちが認可保育園へ流れた部分はある。ただ、ほぼ全員が代替事業での保育となるので心配は少ないと考える。現在の工事状況については副座長より説明させていただきたい。

(副座長): 工事は現在中断した状態である。中断した工事を引き継いで行う業者を現在探している最中である。予算については市からの補助がある予定であるため、今年の秋以降の完成となりそうである。ただ、3園移管については、問題なく行えるので心配はいらないと思われる。

(座長): 4月からの代替保育費用は100%市負担となる部分での影響があると思われる。

(保護者E): 子ども協会が発注した契約が債務不履行となった影響がないということか。

(副座長): 子ども協会が前払い時に1億6千万円支払っているが、保険に加入しているため、実際に完成した部分を除いて保険から9千万円程度戻ってくる予定である。途中から再開する場合には、最初から建てるよりも少し割高になるため、その分を市から補填してもらえることになっている。そのため市税が当初の想定より多くかかるが、子ども協会の事業・サービスには影響が出ることはない。

(2) 移管効果の検証についての総括

・検証委員会報告書(案)の確認

(座長): 報告書(案)については事前に配布させていただいた。表題、目次の確認後、本文の確認をしていきたいと思う。

1. 2. 3についてご意見をいただきたい

(保護者C): この報告書の位置付けはどういうものか。今までの会議の議事録を見られるのであれば、詳しく記載する必要はないと考える。

(座長): この報告書は検証委員会の最終的な結果をまとめたものとする。議事録と併せてみることで、今回の検証委員会の流れがつかめるようにと考えている。

(保護者F): 移管への流れが分かるようにホームページに掲載できないか。

(座長): そのようにしたい。

続いて、4についてご意見をいただきたい。

(保護者C): 協会立園になって良かったというまとめ方が良いと考えている。備品を買う際に予算が柔軟に使えるなどのメリットを記載してほしい。

(副座長): 記載時に注意が必要なのは、市ができないということではなく、協会の方がより早く対応できるということと考える。

(座長): 市はどうしても予算化してから行動することが必要なので時間を要してしまう。

(保護者F): については、事業予算としてどれくらいかかったかを記載したほうが良いと思う。コスト面と比べやすいと考える。

(座長): 実際に生み出された財源を基に待機児対策事業を行っていることは確かであるが、直接待機児対

策事業に充てているのではないため、1対1で表現することは難しい。

(保護者F): 本文を読むと、生み出された財源を使っているように見えるが、移管があってもなくてもこれらの事業は行われていたか。

(座長): 市としては第五期長期計画に則って待機児対策を行っているが、市全体の限られた予算の中で事業を行っていくためには、財源を生み出したうえで提案していかないと実現しにくい状況である。移管によって生み出された財源があるため、新たな待機児対策を打ち出していきやすい基礎があると考えていただきたい。

(保護者E): 移管の効果が直接的か間接的かという点と効果を受けた主体が誰かという点が不明瞭なので、分かりにくくなっていると思う。移管による効果が目に見えやすいように記載してほしい。

(座長): 効果の主体としては、は市、は保護者、は市、はどちらかということと保護者向け というような記載をしたい。効果が直接的か間接的かの記載については、事務局にて検討したい。

今回の報告書では、5.で 検証委員会としての結論をまとめたくうえで、6.で 今後につながるような課題等を記載していきたいと考えている。

(保護者C): 今回の移管については、何ら問題ない。どちらかということ、次の移管の方が気になる。

(保護者B): 同様に問題はないと感じている。

(保護者G): 特に問題に感じるようなところは正直よく分からない。公立を卒業した子と協会立園を卒業した子がどう違って来るかは全く現状ではわからない。子どもも親も満足しているので、結果的にほとんど問題がないのが良かった。

(保護者A): 以前通っていた保育園が民営化になるにあたって揉めた印象があった。この2園だけを取り上げるとほとんど問題はないと考える。民営化や移管をなぜ行うかという視点からすると、民営化による子どもたちへの負担や園内の状況、公立園の良さを残すという問題が一番少ない方法が新武蔵野方式であったと思う。当初はそんなに良いところ取りの方法があるわけないと不安であったが、実際に始まってみると、ほとんど変わらず、子どもたちに影響がないことが何よりだと考える。将来的な課題としては、第三者評価が高すぎるのが怖いですが、これは、市や園が移管に向けての情報提供を熱心に行っていた結果だと思う。ただ、来年度からは移管に向けての経過を何も知らない方が入ってくるので、そこからが問題かもしれない。

(座長): どこまで記載できるか分からないが、その方向で考えていきたい。

(職員B): 報告書が様々に活用されていくと思うが、公立4園を残していくことを前提とした移管であったので、今回の移管が良かったので全て移管にした方が良いとの結論を付けてほしい。新武蔵野方式を採用したことの意義を記載していただきたい。

(座長): 大きな変動もなくという視点は保護者側からであるため、職員側からの視点も取り入れて記載していきたい。

(職員B): 円滑に移管していくために、移管前から園側で努力してきたことも記載していただきたい。

(職員A): 保護者も職員も移管前後で変わらないということを、大前提として職員が意思を共通にして取り組んできた。公務員・協会職員を問わず同じ職員であり、今までと同じ視点で保育に取り組んでいるということを、保護者や子どもたちに伝えていくことが何よりも第一だと考えている。1年目はとりあえず変えないことを第一とした。2年目はなぜこの保育を行っているのか、残すべき保育とは何かを考えて日々の保育にあたっている。この想いを保護者にも伝えていくことがこれからの課題と考えている。

(職員B): 新しく変わることは、保護者や職員にとって不安である。それを解消するためには、良いところは残し、悪いところは直していく必要がある。それを続けることで、保護者も職員も子どもたちも満足する温かい保育園ができるという想いが一番根底にある。そのためには、職員教育が何よりも大切であり、お互い作り上げていく関係が重要であると考えます。これまで公務員として培ってきた保育が非常に有効であったと思う。

(保護者A): 新武蔵野方式というものが全てのことにかかっていると思う。先生方も変えないというだけでなく、今までの仕組みと違う中でやってみようということが沢山出てきたのだと思う。移管という大きな課題を目の前にして、先生方もまとまってやっていこうという思いが伝わっており、保護者と職員とがためにコミュニケーションを取ることによる相乗効果もあったと思う。今までとこれからで大きな変化があるとも考えている。決定的な公立園と民間園の差に立ち合っていないのでわかりにくい部分もあると思う。

(座長): 基本方針を踏まえてまとめていければと思う。

(副座長): 基本的には移管園の検証がこの委員会の趣旨であるので、公務員保育士の在り方まで立ち入るものではないと考える。公務員保育士が残っていたことによって、移管が非常にスムーズにいったことは事実であるのできちんと記載してほしい。課題としては、会議の中でも何回か言及したが、職員をきちんと育成していくことが、新人保育士が大量に入ってくる状況でもあり、非常に重要であると考えている。

(座長): 6 . 終わりに を考えることと併せ、議題の3に入りたい。

(3) 委員会を振り返って

(保護者H): 当初は何が何だかわからない状況で入ってきて、会議を通してようやく状況が把握できてきた。課題としては、園の保護者間で移管の話題が出ないことが不安である。これからは、移管についてどのように伝えていけば良いかを考えていきたい。

(保護者F): 今回の会議では色々な情報をいただけて有意義であった。報告書の中に運営委員会が役立ったことの記載もあると良いと思う。移管によって待機児対策に活かせることがあれば記載したほうが良い。また、移管した園と児童館との連携は、今後考えられるのか。

(副座長): 児童館については現段階では検討している段階であるので難しいと思う。

(保護者F): 今後を見据えて記載してはいいかがか。

(座長): 今回の委員会の趣旨と離れてしまうため、記載は難しいと考える。

(保護者E): 保育士を対象とした効果も記載したほうが良いと思う。今後は運営委員会にも参加させていただきたいと思う。新武蔵野方式については、現状の保育内容を変えずに国や都から補助金をもらうために考えた制度と認識している。評価するのが難しい制度とも思う。今後の方向性も見据え、リスクについても考えていただきたい。

(保護者I): 新武蔵野方式は、限られた財源の中で保育の質と量を考えた良く出来たスキームだと思う。公務員と協会プロパーとの労働環境を含めたマネジメントが肝だと当初から考えていた。潜在的にこの問題は残っていき、長い時間の経過とともに対立軸が増えていくことになるので、それを見据えてしっかりやってほしい。

(保護者D): 移管に関しての不安はない。ただ、数年後、数十年後にどうなっていくかが問題だと思う。協会職員が増えたときにどうなっていくかが課題と考える。

(保護者J): 検証委員会はもともと移管がうまくいくかを検証していくものなので、待機児対策よりも子どもを預けている保護者委員の立場としては、保育を受けている子供たちが協会立園の中できちんとした保育を受けられているかという視点での記載が必要だと思う。新しい保育士が29人も増えているという状況については、古い先生も協会職員になることも多いと思うので最初からの育成が必ずしも必要であるわけではないと思う。公立園も協会立園も選べるのが良いと思う。

(保護者C): 新武蔵野方式が補助金をもらうためのスキームである前提として、いただいた補助金を認可保育園の保育の質を認可保育園に入れていない人にも提供していくためであると考えてるので、待機児対策についても重要な要素と考えている。市には似たような組織が他にもあるため、その中で起こっている問題はわかっていると思う。市の職員として保育士の採用状況をお伺いしたい。

(座長)平成23、24、25年度は市としては取っていない。26年度以降は5園移管の検証後に方針が決まる状況である。

(保護者C): 民営化したからもっとできるだろうというのが周りからの意見である。民営化したことの利点を活かして行ってほしい。

(保護者B): 以前の保育園も利用しているが、移管後の現在もその当時と変わっていないので、安心して預けており、先生方の努力も非常に伝わっている。移管によってより良くなってほしい。

(保護者G): 移管については、子どもの保育を含め何も変わらず良かった。実際2年間預けて満足であった。今後については、うまく行なえている今だからこそ制度が変わったときのことも想定して対策を練っていただきたい。

(保護者A): 良い時にいたという感想を持っている。移管も建て替えもあり色々あったからこそ、情報もいっぱい出ており、保育士の質も高い状態で子どもを預けられたと思う。保育園側としては、不安定な状態で行っている状況であると思うので、安易な民営化は避けてほしい。今後についても、移管当時の人たちの思いをきちんと踏まえた報告書にしてほしい。

(座長): 事務局で練ったうえで、各委員と遣り取りしたうえで報告書を出していきたい。今後のご意見があれば事務局に出していただきたい。

(保護者E): 今年の3園移管後については、当面の間、白紙ということではよろしいか。

(座長): 5園の移管をきちんと検証したうえで、公務員保育士・公立園の在り方を検討したうえで考えていくことになると思う。子どもプランでの位置付けと第五期長期計画調整計画の方向性が決まるまでは白紙であると考えていただきたい。

最後に、市としては子ども協会と二人三脚で、安心・安全な保育を心掛け、保育の質を落とさないように取り組んでいきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

以上にて、検証委員会を終了といたします。